

令和元年度 事後評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	都市計画道路 和泉中央線																		
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路整備課 建設グループ（連絡先 06-6944-9280）																		
事業箇所	和泉市肥子町一丁目、二丁目、府中町一丁目、二丁目地内																		
事業目的及び事業内容	<p>【事業目的】 本路線は和泉市の中心部と丘陵部を東西に結ぶ幹線道路であり、JR 阪和線との鉄道交差点における立体交差事業の整備を行うことにより、踏切遮断による慢性的な交通渋滞を緩和し、和泉市中心部の交通流の円滑化を図る。 また、現道は和泉府中駅へのアクセス道路であり、自転車・歩行者ともに交通量が多く、歩道もないため、現道拡幅を行うことにより安全確保を図るものである。</p> <p>【事業内容】 道路築造・鉄道立体交差（アンダーパス） 事業延長：600m 道路幅員：33.0m 車道：本線部 3.25m×4、側道部 3.0m×2 歩道：歩道 3.2m×2</p>																		
関連事業とその現状	—																		
社会経済情勢の変化	<p>【本路線・周辺道路の状況】 本事業は、平成 26 年 3 月に供用した。</p> <p>[供用後交通量] 一般国道 480 号</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 22 年度（供用前）</th> <th>令和元年度（供用後）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12 時間交通量</td> <td>8,944 台</td> <td>17,448 台</td> </tr> <tr> <td>24 時間交通量</td> <td>12,228 台</td> <td>23,818 台</td> </tr> </tbody> </table> <p>田治米忠岡線</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 22 年度（供用前）</th> <th>平成 27 年度（供用後）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12 時間交通量</td> <td>4,084 台</td> <td>3,653 台</td> </tr> <tr> <td>24 時間交通量</td> <td>5,718 台</td> <td>4,676 台</td> </tr> </tbody> </table>		平成 22 年度（供用前）	令和元年度（供用後）	12 時間交通量	8,944 台	17,448 台	24 時間交通量	12,228 台	23,818 台		平成 22 年度（供用前）	平成 27 年度（供用後）	12 時間交通量	4,084 台	3,653 台	24 時間交通量	5,718 台	4,676 台
	平成 22 年度（供用前）	令和元年度（供用後）																	
12 時間交通量	8,944 台	17,448 台																	
24 時間交通量	12,228 台	23,818 台																	
	平成 22 年度（供用前）	平成 27 年度（供用後）																	
12 時間交通量	4,084 台	3,653 台																	
24 時間交通量	5,718 台	4,676 台																	
事業実施による自然環境の変化	周辺は市街地が形成されており、本事業において新たに自然環境に影響を与えることは無い。																		
最終評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	—																		

2 事業効果の分析等

	最終評価時点 H23	事後評価時点 R1	変動要因の分析
事業費	124.0 億円 国:68.2 億円、府 55.8 億円	124.5 億円 国:68.5 億円、府:56.0 億円	事業費精査による増加
経過 ①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	① 15 年 ② 平成 9 年度 ③ 平成 9 年度 ④ 平成 24 年度	① 17 年 ② 平成 9 年度 ③ 平成 9 年度 ④ 平成 26 年度	踏切周辺の施工に関して鉄道事業者との協議に時間を要したことによる延伸
定量的効果 (費用便益分析等)	<p>【効果項目】 ・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益</p> <p>【分析結果】 ・B/C=1.5 B=210.6 C=142.3</p> <p>【算出方法】 費用便益分析マニュアル(国土交通省平成 20 年 11 月)</p>	<p>【効果項目】 ・走行時間短縮便益 ・走行経費減少便益 ・交通事故減少便益</p> <p>【分析結果】 ・B/C=1.3 B=260.0 C=205.9</p> <p>【算出方法】 費用便益分析マニュアル(国土交通省平成 30 年 2 月)</p>	供用年度が延伸されたことによるもの
事業効果の定性的分析 (安全・安心、活力、快適性等の有効性)	<p>【効果項目】 ・歩車道分離による歩行者、自転車の安全確保 ・鉄道とアンダー交差となることにより安全性が向上 ・本路線整備による事業地周辺の道路渋滞緩和 ・駅前再開発事業との一体整備による新たな活力をもたらす街づくりの推進</p> <p>【受益者】 道路利用者、地域住民</p>	<p>【効果項目】 ・歩車道分離による歩行者、自転車の安全確保 ・鉄道とアンダー交差となることにより安全性が向上 ・本路線整備による事業地周辺の道路渋滞緩和 ・駅前再開発事業との一体整備による新たな活力をもたらす街づくりの推進</p> <p>【受益者】 道路利用者、地域住民</p>	
その他特記事項	—		

3 評価結果と今後の同種事業に対する改善措置等

評価結果 (事業効果の発現状況等)	本区間の整備により、鉄道による交通の分断が解消され、交通渋滞の緩和および和泉市中心部の交通流の円滑化が図られた。また、和泉府中へのアクセス路として歩行者等への安全確保が図られた。
今後の同種事業に対する改善措置等	—

事業箇所図



平面図



現況写真



断面図

